

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について
病虫害発生予察特殊報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 26 年度 病虫害発生予察特殊報（第 3 号）平成 26 年 12 月 9 日
愛 媛 県病虫害名 サクセスクイムシ (*Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg))

作物 なし

特殊報の内容 愛媛県における果実への穿孔被害の初確認

- 1 発生地域 今治市
- 2 発生経過

平成 26 年 9 月中旬に、今治市内の栽培なし園「豊水」の果実に直径 1 mm 程度の小さい穴を生じる被害（写真 1）を確認した。そこに穿孔しているクイムシ（写真 2）を採集し、独立行政法人森林総合研究所九州支所森林動物研究グループに同定依頼した結果、サクセスクイムシであることが明らかになった。本種は、なしの幹や主枝に穿孔し、樹勢の低下や枯死させるが、本県で果実への穿孔被害を確認したのは、今回が初めてである。

- 3 他県での発生状況等

サクセスクイムシによる果実の穿孔被害は、千葉県（2005 年）で初めて確認され、その後、同被害は栃木県・愛知県（2006 年）、岐阜県（2008 年）、新潟県（2009 年）で確認されている。

- 4 形態および生態

雌成虫の体長は約 2 mm、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色をしている。年 1～2 回発生する。成虫態で樹内越冬し、4～5 月頃脱出して樹勢の弱い樹の枝幹に穿孔する。孔道の直径は約 0.7 mm で、木質部を穿孔して孔道から細かい木屑を排出する。本種の寄主範囲は広く、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類では、なしの他に、りんご、もも、かき、くりなどの枝幹部への穿孔被害が確認されている。

- 5 被害

1) 成虫によるなし果実への穿孔から被害果が生じる。被害果は、日数の経過とともにその穿孔部分を中心に腐敗する。

2) 腐敗果の特徴は、果実吸蛾類の被害によく似ている。クイムシの場合は穿孔穴の大きさが直径約 1 mm と吸蛾に比べてやや大きく、穴を中心に一様に褐変する（写真 3-1）。これに対し、吸蛾の場合は吸汁部分の穴がより小さく、中心部と周縁部にわずかな濃淡がみられる（写真 4-1）。また、断面を観察すると、クイムシの場合は穿孔部分以外に空間がみられない（写真 3-2）が、吸蛾の場合はスポンジ状の空間がみられる（写真 4-2）。

3) 果実被害は、袋掛け後にも発生し、特に過熟果で多い傾向にある。

- 6 防除対策

1) 果実は過熟にならないよう適期収穫に努める。

2) 適正な肥培管理により樹勢の維持、回復に努める。穿孔が多く衰弱の激しい樹は主幹部が残らないように伐採し、剪定した枝幹等も含め適正に処分する。

3) 被害果を確認した場合は、周辺に枝幹の穿孔被害も発生している可能性が高いので、木屑を目印に観察する。枝幹被害を確認した場合は、成虫活動時期の 4～5 月にトラサイド A 乳剤 200 倍を樹幹部へ丁寧に散布する。なお、薬液が新葉や花など軟らかい組織に付着しないようにする（薬害）。



写真1 サクセスキクイムシによる被害果

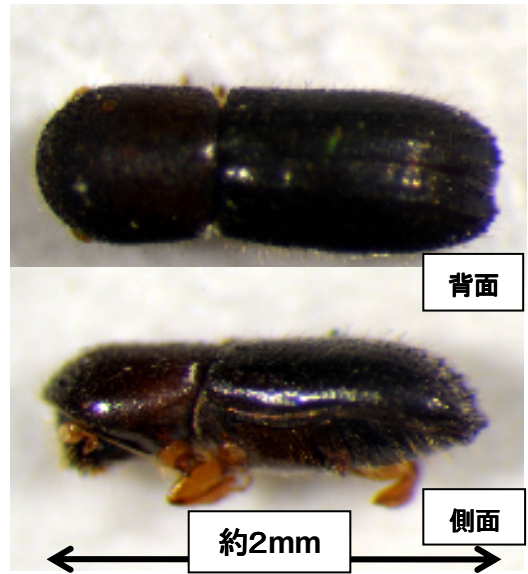


写真2 サクセスキクイムシ成虫

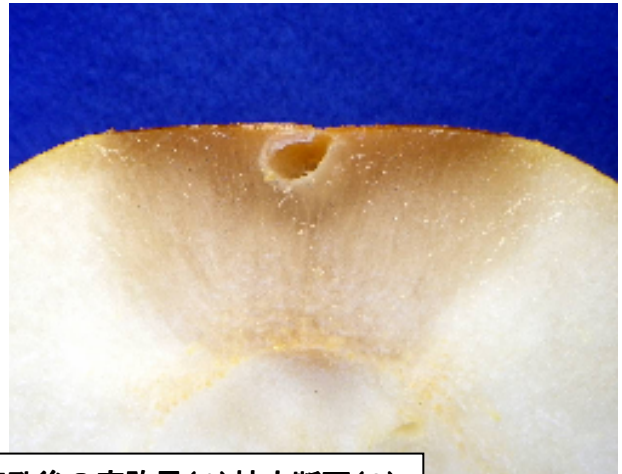


写真3 サクセスキクイムシによる穿孔後の腐敗果(1)拡大断面(2)

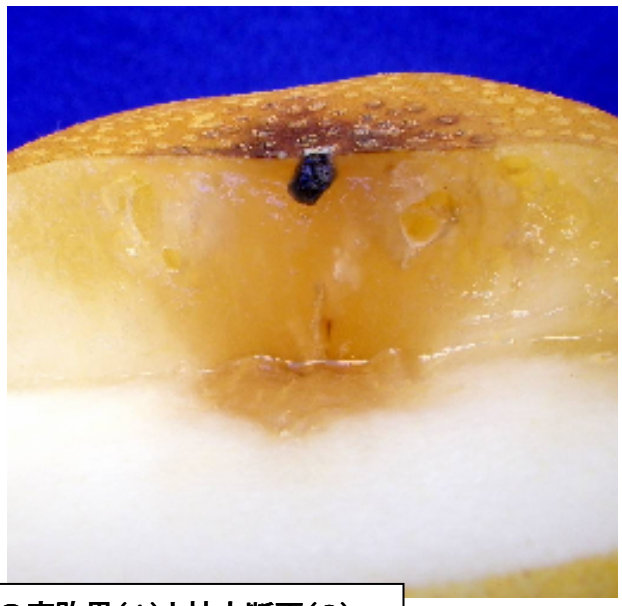


写真4 果実吸蛾類による吸汁後の腐敗果(1)と拡大断面(2)